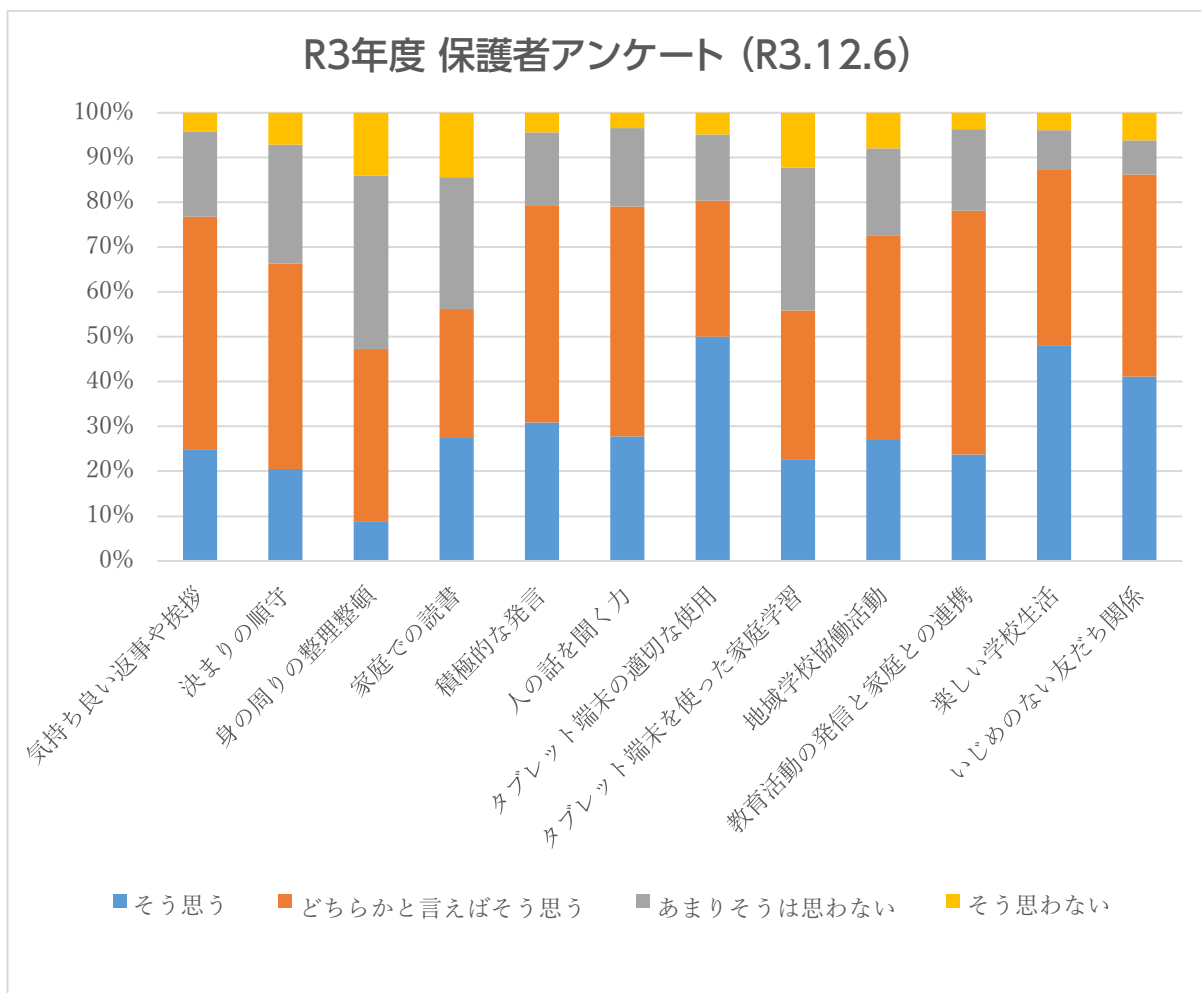


令和3年度 保護者アンケート

(R3.12.1~6 実施)

本年は94%のご家庭から回答をいただきました。各設問の回答の傾向は次の通りです。



<心とからだ>

1. お子さんは、家の人や近所の方に、気持ちの良い返事や挨拶ができましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答は、全体の76.8%です。「おはよう」に始まり、「おやすみ」の挨拶まで、お子さんが家族や友だち、先生や近所の方に様々な挨拶ができたかどうかを問う設問でした。児童アンケートでは86.8%が肯定的回答をしていますので、保護者の皆さんのそれと少し開きがあります。

年齢が上がると恥ずかしい気持ちが芽生え、今まで無邪気に大きな声でできた挨拶ができなくなってしまうことがあります。親子が共に行動する機会に、大人がまず「いい挨拶」のお手本を示し、家庭や学校、地域で明るく元気な挨拶が飛び交うようにしていただきたいと思います。子どもたちはきつと周囲の大人がする通りのことをします。



2. お子さんは、おうちの決まり(ゲームや宿題の時間、お手伝い等の決まりなど)を守っていましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答したご家庭は66.3%しかありません。恐らく、下校後のゲームに費やす時間が長くなり、約束が守れない子どもたちがたくさん出てきたからだだと思います。では、約束を守るということに対して子どもたちはどのように考えているのかと言いますと、後期児童アンケートでは、81.9%の児童が「できた」「概ねできた」と答えています。規則や決まり、モラルを守ることを規範意識と言いますが、大人が考える「できた」「できていない」の判断基準と子どものそれとは大きな差があるように思います。学校での子どもたちの様子を見ていますと、規則や決まりを守れな

い子どもは「他の子もしている、自分だけじゃない」と言い張り、なかなかできていないことを認められません。よって、本校の保護者の皆さんや教職員が子どもの成長を見守る視点は「子どもの規範意識の向上」にあるのではないかと考えます。

3. お子さんは、家で、学習用具・おもちゃ・靴などの整理整頓ができましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答は、全体の47.3%です。学校では毎日毎日たくさんの忘れ物や落とし物がありますが、それを捜しに来る子は滅多にいません。制服や家の鍵であっても引き取り手がない状況です。しかしながら、後期児童アンケートでは74.6%の子どものみが「できた」「概ねできた」と答えており、前問の回答と同様に、保護者の皆さんの意識と子どもたちの意識には大きな差があります。

物が溢れる時代ですので、なくしたり落としたりしてもすぐに新しいものが手に入りますが、なくなったことにすら気づかないのはいけないと思います。学校では給食後に掃除をし、整理整頓してから午後の授業に入ります。ご家庭でも、寝る前に身の回りの片づけをする時間をとられるのはいかがでしょうか。



4. お子さんは、ご家庭でも、読書をしていますか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答は56.3%でした。学校では始業前に読書タイムを設け、本に親しむ時間を設けています。その時間に熱中して本を読める子どもは70.5%もあり、「みんなで読む」「好きな本を読む」「黙って読む」といった環境が整えば、子どもたちは読書に向かうように思います。きっとお子さんが幼いころは、多くの親御さんが寝る前に絵本の読み聞かせをされていたと思います。そのような時間がご家庭で設定されていたから、お子さんは「読んで、読んで。」とせがむことも多かったと思うのです。今、「うち読」(家で読書をする)をしようと言われていますが、ご家庭で大人が本を読む姿があると、子どもも「読んでみようかな」という気持ちになるようです。是非ともご家族で本を読む時間をつくっていただきたいと思います。

<学ぶ力>

5. お子さんは、自分の考えを積極的に言えるようになってきましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えたご家庭は、全体の79.2%でした。子どもを育てる上でのキーワードは「言葉」であると以前聞いたことがあります。「自分の思いが伝えられず、授業中は手を挙げて発表しない」「声が小さい」「休み時間になるとよく話す」などの子どもたちの実態に対して、できることは何でしょうか。

教員、そして家族が信頼できる話し相手であることが大切です。相手に対して信頼感がないと子どもは話しません。そのためには血の通った言葉を子どもに聞かせることだそうです。教員も学校では丁寧に話したり聞いたりすることを心がけています。ご家庭でも子どもの話に「～しなさい」などの言葉がけだけでなく、「おもしろそうね」「それからどうしたの」「困ったねえ」と共感して聞いてあげてください。



6. お子さんは、話をきちんと聞くことができますか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答したご家庭は79.1%でした。学習指導要領では「対話的な学び」の重要性が掲げられています。対話は、自分から学ぼうとする姿勢につながります。自分以外の人の考えや意見を聞くことで、一人で学習するよりも多様な情報が入り、聞いて自分の意見を整理することによって自分の考えがより明らかになったり構造化されたりするからです。新型コロナ感染症対策で、学校ではなかなか友だち同士で話し合う機会がありませんでした。だからこそ、ご家庭でお子さんと話をする機会を持っていただきたいと思います。お子さんが親御さんの目をしっかり見て、話を理解しようとしているか、このような心の交流はお子さんにとって得るものが大きいと思います。

7. お子さんは、タブレット端末の使い方に慣れ、家でもきまりを守って使えましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答は 80.4%です。後期児童アンケートでも、「タブレット端末の使い方に慣れた」と答えた児童は 94.4%でした。これは、2 学期初め、新型コロナ感染症対策で、午後からオンライン授業を行ったことに起因すると思われます。

しかし、決まりを守って使用できたかと言いますと疑問が残ります。学校ではゲームのサイトにアクセスできないように設定していますが、直接アクセスするのではなく、迂回してゲームサイトにアクセスする方法を知った子どもたちの間で情報交換が行われ、登校するや否や、また授業中でも、担任の先生に気づかれぬようにゲームに興じる児童がいます。周囲の友だちの忠告や制止も聞き入れません。恐らく、ご家庭でも同様の事が起こっていると思います。タブレット端末を正しく使う指導を学校でも行っていますが、ご家庭では、充電をリビング等の大人の目の届く場所で行うこと、一週間に一度はお子さんの端末接続履歴をチェックすることをお願いします。



8. お子さんは、タブレット端末を使って家庭学習をしていますか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答は 55.9%でした。タブレット端末には、e ライブラリというソフトが入っています。学校では定期的に e ライブラリでの家庭学習の課題を出していますが、このソフトは、復習問題だけではなく、予習にも使えます。せっかく入っているソフトなので、ご家庭での学習に活用してください。また、お子さんが病気で学校を休んだ時には、体調を見ながらご活用ください。長期休業中には、タイピング練習の課題も出ます。



<家庭や地域>

9. お子さんが、地域の方から教えてもらったり、一緒に活動したりしていることをご存じですか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答は、全体の 72.6%です。本年度から生駒市では市立の全小中学校がコミュニティスクールになったことを、学校だよりでも度々お知らせしています。それが直接学力や体力の向上に繋がるわけではありませんが、今年度、学校運営協議会は、「困ったら助けていただけの応援団」でした。授業態度が落ち着かない学級の子どもの様子を見に来ていただいたり、家庭科でミシンや調理実習の補助をしていただいたり、また、包丁砥ぎが上手な方、野菜作りが得意な方、地域のお祭りについてよく知る方など、学校と新たに繋がることのできた方も、学校運営協議会の紹介で知ることができた方々です。12 月には、4 年生が、お世話になった方を学校に招待し、感謝のイベントを開き、40 人ほどの方が来校されました。



10. お子さんが所属する学級や学年、そして学校は、教育活動をわかりやすく伝え、御家庭と連携を図ろうとしていましたか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答したご家庭は 78.2%です。ここ 2 年は、コロナ禍で子どもも保護者も集うことを制限され、なかなか学校の様子がお伝えできない状態、子どもたちの学校生活の様子を保護者の皆さんに見ていただくことができない状態が続いています。唯一の情報公開手段は学校だよりや学年・学級だよりでした。授業参観もオンラインで今年は実施しましたが、子どもたちの生の姿を十分見られないことに、育友会からも懸念する声があり、12 月 1 日に保護者会を開いて、子どもたちの成長と課題を担任からお伝えしました。3 学期も分散参観と保護者会を行う予定ですので、よろしく願いいたします。

<生活>

11. お子さんは、学習や行事など様々な教育活動を行いながら、楽しく学校生活を送っていますか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答は 87.4%です。後期児童アンケートでは「学校が楽

しい」の回答は 83.1%でした。5 月 27 日に実施した全国学力・学習状況調査では 65.4%と、全国平均の 83.4%よりかなり低く、非常に心配な状況でしたが、半年を経て、ようやく学校生活に楽しみを見出した子どもたちが出てきたのではないかと思います。

一方でやり場のない怒りや腹立たしさをもち、「学校が面白くない」と言う子どももいます。10 月から校長室の扉に「悩み相談箱」を設けましたが、12 月半ばで 18 件の相談が寄せられました。「いじめている人がいる」「授業中やかましくする子がいる」「授業中に教室を出て、他の教室に行く人がいるので集中して勉強できない」などの悩みを書いた児童とは、校長が直接面談し、担任に伝えたり相手の児童を呼んで注意したりしています。この取組は学校を訪れた地域の方の発案でしたが、今後も継続したいと思います。



12. お子さんはいじめたりいじめられたりすることなく、友だちと仲良く過ごしていましたか。



「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答は、全体の 86.2%です。最近のトラブルの多くは、長年の恨みが募って我慢できなくなったのではなく、ちょっとした人間関係の摩擦で後先を考えずに至ったものです。それが集団でのいじめにつながるものもあり、本校ではチャットへの誹謗中傷の書き込みなど、とても心配なことも起こりました。

本校の子どもたちを見ていますと、「してはいけないこと」や「言ってはならないこと」が十分身に付いていないお子さんの存在が非常に大きく、自分を律することができない状態で、自分の自由や権利を主張しているように思われます。その結果、自己主張ばかりが強くて自己抑制ができず、協調性や思いやり、礼儀正しさ、我慢強さに黄信号が点灯しています。

善悪の判断やモラルは人が一生持ち歩くものです。家庭や学校できちんと身に付けていかなければ社会に出て困るのは子どもたち自身です。これは一朝一夕で身に付くものではありませんので、日々の積み重ねを継続し、家庭に連絡しながら学校はいじめの未然防止に取り組んでいきたいと思えます。